

PRESS RELEASE

2018 / 07 / 23

# 阿部展也

## —あくなき越境者

**NOBUYA ABE 1913-1971:  
Insatiable Quest beyond Borders**

2018年9月15日（土）—11月4日（日）

埼玉県立近代美術館

新潟県に生まれ、独学で画家を志した阿部展也（あべ・のぶや、1913-1971）は、瀧口修造との共作による詩画集『妖精の距離』（1937年）で、若くして注目を集めました。また、雑誌『フォトタイムス』に実験的な写真を発表するなど、戦前の前衛写真の運動にも重要な足跡を残します。1941年からは陸軍の報道部写真班に所属し、出征先のフィリピンで雑誌の表紙や挿画、写真を手がけ、戦後に帰国すると、キュビズムやシュルレアリスムに影響を受けた人間像を多く描きました。1950年代末以降は、具象的なモチーフを離れて、アンフォルメルから幾何学的抽象へと作風を目まぐるしく変化させていきます。また、インドや東欧、アメリカに渡って、持ち前の英語力で各国の美術家と親交を結び、1962年から没するまではローマで過ごしました。その間に海外の最新の美術動向を、文章や展覧会を通じて精力的に日本に紹介しています。

こうして阿部展也の生涯を辿ると、その活動の多様さに驚かされます。並外れたバイタリティでジャンルや文化を越境し、自ら変貌し続けるとともに、広い視野に立った創作と言論によって、日本の美術界にも大きな影響を与えた阿部展也。この展覧会では、初期から晩年にいたるまでの主要作品に加えて、雑誌や写真、下絵といった資料や、交流のあった国内外の美術家の作品を含む約230点によって、その全貌に迫ります。

## 展覧会構成

- 第1章 出発—〈妖精の距離〉と前衛写真 1932-1941
- 第2章 フィリピン従軍と戦後の再出発 1941-1947
- 第3章 人間像の変容—下落合のアトリエにて 1948-1957
- 第4章 技法の探求から「かたち」回帰へ—エンコースティックを中心に 1957-1967
- 第5章 未完の「越境」 1968-1971

### \*その他の出品作家

瀧口修造、土屋幸夫、大辻清司、豊福知徳、宮脇愛子、ベン・シャーン、ルーチョ・フォンタナ、ジュゼッペ・カポグロッシ、アントニノ・ヴィルドツォ、ピエロ・ドラツィオ、オットー・ピーネ、ジュゼッペ・ウンチーニ、ギュンター・ユッカー、エンリコ・カステルラーニ、ハインツ・マック、マリオ・スキファノ

\*出品点数：約 230 点（予定）

## 関連イベント

### ■講演会「戦時下の道標——フィリピン時代の阿部展也」

講師：副田一穂（愛知県美術館学芸員）

9月16日（日）15:00～16:30（開場は30分前）／2階講堂／定員：100名（当日先着順）／料金：無料

内容：阿部展也が出征先のフィリピンで手がけた宗教宣撫雑誌『みちしるべ』のための表紙原画を手掛かりに、シュルレアリスムが危険視され弾圧された日本から遠く離れた南方における、阿部の活動の足跡を辿ります。

### ■スペシャル・ギャラリートーク

講師：松沢寿重（新潟市美術館主幹／学芸員、本展覧会企画者）

9月29日（土）15:00～16:00／2階展示室／企画展観覧料が必要です。

### ■担当学芸員によるギャラリートーク

10月20日（土）、10月27日（土）／各日とも15:00から30分程度／2階展示室／企画展観覧料が必要です。

## 開催概要

1. 会期 2018年9月15日(土)～11月4日(日)  
休館日：月曜日(9月17日、9月24日、10月8日は開館)
2. 開館時間 10時～17時30分(展示室への入場は17時まで)
3. 観覧料 一般1000円(800円)、大高生800円(640円)  
( )内は20名以上の団体料金  
※中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料です。  
※併せてMOMASコレクション(1F展示室)もご覧いただけます。
4. 主催 埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
5. 協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
6. 協力 JR東日本大宮支社、FM NACK5
7. 会場案内／アクセス  
埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1  
電話 048-824-0111 FAX 048-824-0118  
<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>  
JR京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分です。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。

## お問い合わせ

展覧会担当：吉岡、大越 / 広報・画像に関してのお問い合わせ：谷田  
電話 048-824-0111 (代表) / 048-824-0110 (学芸部) Fax 048-824-0118

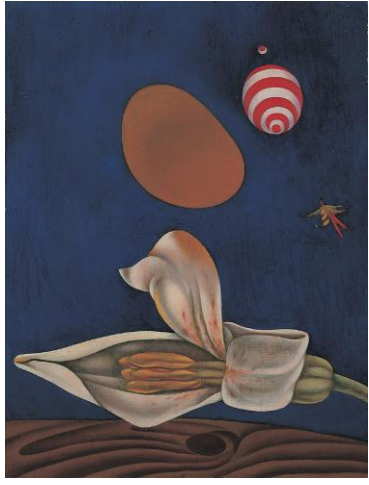
広報用画像



①



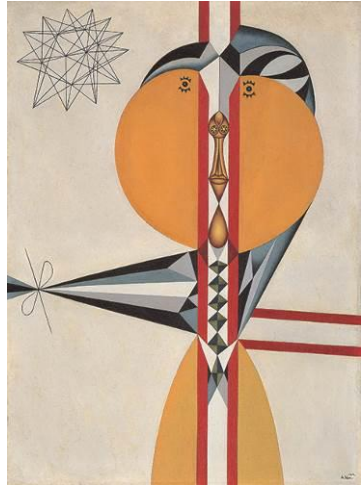
②



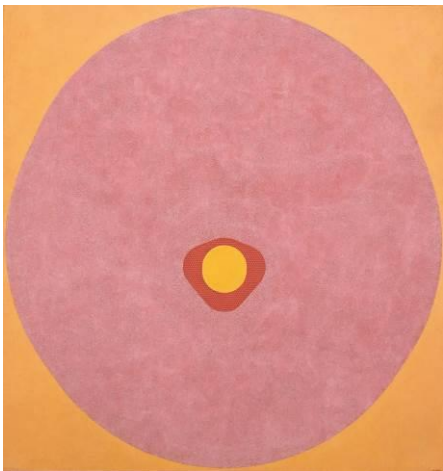
③



④



⑤



⑥



⑦

- ・画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求はメールで、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・谷田）までお願いします。
- ・画像を掲載する場合、下記キャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようにお願いします。
- ・貴社媒体にて本展をご紹介いただける場合、ご希望により読者プレゼント用招待券をご提供します。枚数の限りがありますので、詳細はお問い合わせください。

#### ■キャプション

- ① 『妖精の距離』より《風の受胎》1937年 新潟市美術館蔵
- ② 《雑誌『みちしるべ』表紙原画》1943年 愛知県美術館蔵
- ③ 《Night》1947年 新潟市美術館蔵
- ④ 《飢え》1949年 神奈川県立近代美術館蔵
- ⑤ 《花子》1949年 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館蔵
- ⑥ 《R-12》1966年 千葉市美術館蔵
- ⑦ 《作品》1968年 浜松市美術館蔵